

平成13年12月25日

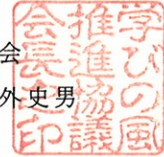
内灘町生涯学習推進本部

本部長 岩本秀雄 様

学びの風推進協議会

会長 蓑

外史男



「子どもが本に親しむ環境づくり」への提言（その2）について

日頃は、町民の生涯学習活動の推進にご尽力をいただき、誠に有難うございます。お蔭様で、「学びの風」が町内全体に少しずつですが浸透しだしているように感じられます。それは、町民が学びを通して幸せを求める姿が多くなっていることであり、大変喜ばしいことと存じます。

さて、昨年11月に「子どもが本に親しむ環境づくり」について提言させていただきましたところ、早速小中学校へ実験的ですが、図書司書を2名配置していただきました。このことは、町内各小中学校での子どもの読書活動を非常に活発にし、今年夏の内灘町子ども読書感想文コンクールでは、町内小学生の半数近くの900名以上の応募があったという、大変素晴らしい結果に繋がっています。感想文の審査では、学びの風推進協議会のメンバーが嬉しい悲鳴を上げ、また、子どもたちの素晴らしい感性に感動いたしました。

ここにあらためて、「子どもが本に親しむ環境づくり」の提言にご理解いただきましたことに感謝申し上げ、少しずつ効果が表れていること、大変うれしく思っております。

つきましては、当協議会といたしましては、更にこの活動を発展させ、積極的に推進していくことが重要であるとのことから、「子どもが本に親しむ環境づくり」への提言（その2）としてまとめましたので、どうぞよろしくご検討いただき、是非とも今後の政策に反映させていただきますようお願い申し上げます。

「子どもが本に親しむ環境づくり」への提言（その2）

1. 子どもたちへの環境づくり

今日、様々なメディアの発達など、子どもたちを取り巻く生活環境が激変し、子どもの読書離れ、活字離れが進んでいると指摘されています。このような環境の中で子どもたちが健全に育つためには、学校図書室の機能を更に充実させ、読書活動を通して感動する心や、情報の得方、思考方法を学び、身につけることが益々重要になっています。

お陰様で、本年度から学校図書司書の配置があり、また、各学校での読書タイムの取組み、町図書館での読み聞かせボランティア養成講座の開設など、子どもたちが本に親しむ機会が着実に増えています。しかし、このような施策を具体的に進めていく中でいくつかの問題点も浮き彫りになってまいりました。そこで、これまでの施策を更に効果的にするために、次のように提言いたします。

(1) 学校図書司書の充実

別紙のように学校図書室を利用する生徒が確実に多くなりました。しかし、いかんせん2名の学校司書では、巡回で週1回、各小学校を訪れることしかできません。そこで、司書の方々が児童生徒とコミュニケーションを十二分に取り、活動し、その成果を挙げられるように、早急に各学校に1名の司書の配置をお願いいたします。

その結果、子どもたちの調べ学習のサポートが充実し、子どもたちの学習が拡がり、思考が深まるものと期待できます。そのことは、子どもたちの本を通しての心の成長につながるものと考えます。

(2) 学校図書室の整備・充実

別紙写真のように「学びの風推進協議会」では、去る10月19日学校教育課のご協力を得、松任市北星中学校の学校図書室を視察させていただきました。そして、生き生きと輝く瞳の生徒たちと学校図書司書に出会い、感動いたしました。

そこで、図書室を、より明るく、快適な読書ができる環境へ整備していただくようにご配慮をお願いいたします。

2. 住民への環境づくり

急速な変化を遂げる現代社会において、住民の学習ニーズも高度化、多様化、複雑化しています。このような学習ニーズに応えるためには、図書館としての本来の機能を更に多様化し、充実させていくことが益々重要になってきていると言えるでしょう。

そこで、中長期的な視点を含んで、次のように提言いたします。

(1) 町立図書館の機能の充実

- ① 高齢者や障害者にも使いやすい、人にやさしい図書館にさせていただきますようお願いいたします。
- ② 図書館への交通アクセスの充実を図り、町民がもっと利用しやすくなるようご配慮をお願いいたします。
- ③ 図書館での人々の読書スタイルや学習スタイルに応えるための、各種スペースの設置をお願いいたします。
(例) チャイルドスペース、ビデオ視聴スペース、パソコンスペース、
新聞雑誌スペース、談話・くつろぎスペース、調べ活動スペース
- ④ 学校図書室の司書との連携・協力体制を築き、町内の図書に関するすべての活動の中心となれる人員配置にご配慮をお願いいたします。

(2) 文学的事業の充実で子どもたちに誇りを

町では、文学的な資源に恵まれた特徴を生かして、これまで4回開催された「内灘砂丘フェスティバル」、更にそれら文学的資源を「内灘砂丘と文学」の書籍に集大成して全戸配布するなど文学をとおしての町づくりに努めてこられました。また、画期的な文化事業との評価が高く、県内外から参加者のある「内灘砂丘文芸スクール」や「子どものための文学イベント」などによって、町内はもちろんのこと、他市町村から「内灘は文化事業の展開が素晴らしい」との賛辞の声をよく耳にし、それら町の文化事業の数々は、町民の心の豊かさづくりに大きく貢献していると思います。

これらの文化的事業と、内灘町独特の砂丘・日本海・河北潟といった自然環境は、今後とも内灘町民の文学的な財産になるものと思われませんが、これまでの文学をとおしての町づくりをより確かなものにするためには、次代を担う子どもたちに内灘町の自然環境との係わりの中で、文学的な事業に参画してもらうなど、子どもたちの文学的な環境づくりが大切であると思います。

そうした施策によって、子どもたちが将来、内灘町民であることを誇りにできる町を創ってゆけるのではないかと思います。